

# 第1部 環境の状況

## 概況

### 第1 自然条件

府の総面積は、わずか1,892.76km<sup>2</sup>（平成9年10月1日現在）で日本全体の0.5%を占めるにすぎず、都道府県の中で最も狭小な地域の一つである。

西は瀬戸内海の東端である大阪湾に面し、北は北摂、東は金剛・生駒、南は和泉葛城と、三方を標高600mから1,100mの山地に囲まれ、府域の中央部は平野が占めている。また、平野の北東部を京都盆地から淀川が、中央部を奈良盆地から大和川が、それぞれ貫流している。

府の気象は、平成10年においては年平均気温が平野部で16～17℃台、山間部の生駒観測所で12.9℃であった。年間の降水量は1,600～1,800mm台、年間の降雨日数をみると112～125日で、年間日照時間は、1,400～1,800時間台であった。

年平均気温の分布をみると、大阪市内で最も高く17.8℃であり、枚方市では17.1℃、豊中市では17.0℃、熊取町では16.8℃、能勢町では14.6℃となっており、都心部を中心に気温が高くなる傾向がみられる。

### 第2 人口

府の人口は、平成10年10月1日現在で883万2,606人であり、全国の人口（1億2,651万人）の7.0%を占めている。

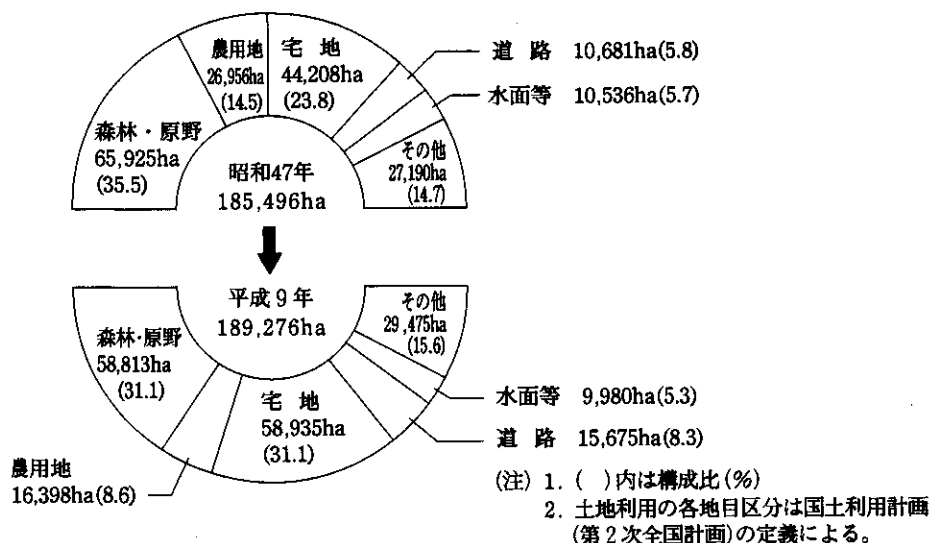
府の人口の動向についてみると、昭和30年代後半からほぼ10年間にわたって、毎年20万人もの大幅な増加を続けたが、この増加傾向は昭和40年代後半以降急速に鈍りはじめ、平成元年から6年連続で減少してきた。平成7年の阪神・淡路大震災の影響で、平成7年に大幅な増加となり、平成9年に引き続き、平成10年も9,295人増加し、増加率は0.1%となっている。

### 第3 土地利用

土地利用についてみると、平成9年においては、宅地（住宅地、工業用地、その他の宅地）が31.1%を占め、森林・原野31.1%、農用地8.6%等となっており、宅地及び道路の面積は、府域の39.4%に達している。また、土地利用の推移は、農用地、森林等が減少し、宅地、道路が増加している（概-1図）。

なお、「都市計画法」（昭和43年法律第100号）に基づく都市計画区域は、平成10年度末現在において、総面積約18万9千haで岬町の一部を除く府内のほとんどが指定されている。このうち、市街化区域は約9万4千ha、市街化調整区域は約9万5千haである。

概-1図 土地利用の推移



#### 第4 河 川

府内を流れている河川（建設大臣管理及び知事管理）は、淀川水系、大和川水系及び17の単独水系のいずれかに属しており、総本数173本（うち知事管理河川163本）、総延長877km（うち知事管理河川797km）となっている（概-2表）。その他、市町村管理の準用河川（総本数61本、総延長102km）等がある。

概-2表 河川の状況

(平成11年3月31日現在)

河川種別	水系別	本数	総延長 左右岸平均延長	管理別延長		
				管理者	本数	延長
一級河川	淀川水系	111本	520,237m	建設大臣	16本	54,804m
				知事	102本	465,433m
	大和川水系	22本	167,106m	建設大臣	2本	25,435m
				知事	21本	141,671m
小計	133本	687,343m				
二級河川	単独水系	40本	190,051m	知事	40本	190,051m
合計		173本	877,394m	建設大臣	18本	80,239m
				知事	163本	797,155m

#### 第5 産業活動

府内における産業活動についてみると、まず、製造業では平成9年の製造品出荷額等は、21兆357億円であり、前年に比べて0.2%の増加となり、3年連続の増加となった。

農業については、平成9年の農業粗生産額は423億8,500万円であり、増減はあるが、おおむね減少傾向にある。農家戸数も引き続き減少傾向にあり、平成10年には32,430戸と平成5年からの5年間に5,140戸減少した。

林業については、平成8年の林業粗生産額は1,153百万円と前年より302百万円の増加となった。

水産業については、平成9年の海面漁業（養殖業は除く）の漁獲量は1万7,292tであり、前年に比べて25.6%減少した。漁業経営体数は、平成9年には744となり、前年に比べ4.6%減少した。

## 第6 水・エネルギー使用

府内における水使用の実態をみると、上水道の給水量について、平成9年度の年間総給水量は13億7,854.5万m<sup>3</sup>で、前年に比べて0.7%減少し、1人1日平均の給水量は434Lと、前年度より3L(0.7%)減少した。

また、工業用水の使用量(全淡水使用量)は、平成9年には日量802.4万m<sup>3</sup>で、用水の回収利用による水利用の合理化の進展は著しく、回収率は88.0%に達している(概-3表)。

府内におけるエネルギー消費動向を、まず、石油製品(燃料油)販売量の推移でみると、平成9年度には、936.7万KLで高度経済成長期(昭和45年度)の53.6%となっている。油種別にみると、昭和45年度に全体の66.8%を占めていた重油は、公害防止対策の一環としての燃料油転換により構成比が低下し、平成9年度には21.3%にまで下がっている。また、平成9年度の府内における消費電力量は5,891.5万MWhであり、都市ガス消費量は36億96百万m<sup>3</sup>であった。

消費電力量のうち、主に一般家庭で使われる電灯使用電力量の人口1人当たりの推移をみると、平成9年度は1,993KWhと、昭和60年度に比べて57.4%増加し、昭和50年度に比べると2.3倍になっている。

都市ガスの家庭用需要1戸当たりの消費量の推移をみると、平成9年度は365.6m<sup>3</sup>と昭和60年度に比べて4.0%増加し、昭和50年度に比べると12.6%増加している(概-3表)。

概-3表 水・エネルギー使用の推移

年	上水給水量		工業用水使用量		石油製品(燃料油)		電力		都市ガス	
	年間総給水量	1人1日平均	全淡水使用量	回収率	販売量	うち重油の占める割合	総消費量	1人当たり電灯使用電力量	総消費量	家庭用需要1戸当たりの消費量
	千m <sup>3</sup>	L	千m <sup>3</sup> /日	%	千KL	%	千MWh	KWh	百万m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>
昭和45年度	1,208,038	430	4,590	55.1	17,465	66.8	23,956	632	756	289.4
昭和50年度	1,299,637	435	7,285	76.9	14,786	52.1	29,586	863	1,207	324.7
昭和55年度	1,249,619	412	8,052	83.7	11,897	44.4	35,517	1,010	1,660	338.3
昭和60年度	1,287,244	409	7,745	86.1	9,550	29.2	42,878	1,266	1,981	351.7
平成2年度	1,403,702	437	7,912	86.5	11,625	25.5	53,025	1,655	2,673	363.8
平成7年度	1,368,846	431	7,967	87.5	10,886	21.0	57,724	1,985	3,563	388.3
平成8年度	1,387,903	437	8,193	88.0	10,471	20.6	58,782	1,997	3,693	383.3
平成9年度	1,378,545	434	8,024	88.0	9,367	21.3	58,915	1,993	3,696	365.6

- (注) 1 上水給水量は府保健衛生部環境衛生課「大阪府の水道の現況」、工業用水使用量は府企画調整部統計課「大阪の工業」による。  
 2 工業用水使用量は暦年集計である。  
 3 石油製品(燃料油)販売量は通商産業省「エネルギー生産・需給統計年報」、消費電力は関西電力㈱調べ、都市ガス消費量は大阪ガス㈱調べによる。  
 4 都市ガス消費量は大阪ガス供給分であり、11,000kcal/m<sup>3</sup>換算による。

## 第7 環境に関する府民の意識

### (大阪の食と農林水産業)

「大阪の食と農林水産業」に関する府政モニター・アンケートを平成11年2月に実施した。その中の「環境に関する府民の意識」に関係する項目の概要は以下のとおりであった〔調査対象：平成10年度府政モニター300名（うちパソコン通信モニターは49名）、回収数：266名（うちパソコン通信モニターは29名）、回収率：88.7%〕。

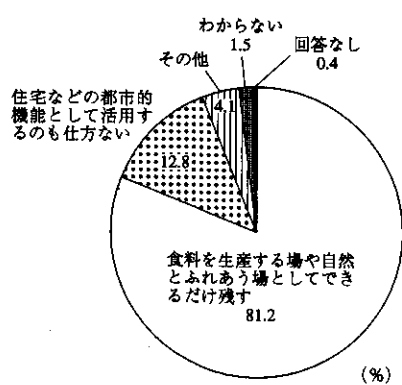
食品製造業者や食品販売店などに対する要望としては、「正しく分かりやすい品質等の表示」(77.1%)や「包装の簡素化」(68.8%)が多くなっている。

農空間（農地、ため池、水路等）の重要な役割については、「緑の提供など良好な生活環境の形成に果たす役割」をあげたものが最も多く、農地の活用については、81.2%が「食料を生産する場や自然とふれあう場としてできるだけ残す」と回答している（概-4図）。

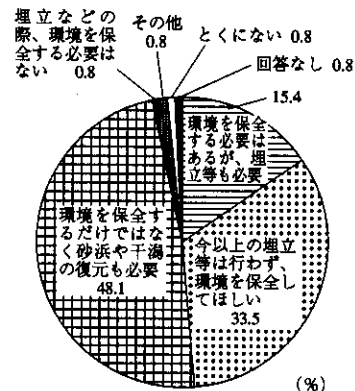
大阪湾の埋立などと環境保全について見ると、「環境を保全するだけでなく、砂浜や干潟の復元も必要」が48.1%と最も多く、「今以上の埋立等は行わず、環境を保全してほしい」の33.5%が続いている（概-5図）。

森林（山林）の重要な役割については、「水資源の確保や山崩れなどの災害を防止する役割」(59.0%)、「大気の浄化や地球温暖化防止の役割」(57.9%)をあげたものが多くなっている（概-6図）。

概-4図 府内の農地の活用について



概-5図 大阪湾の埋立などと環境保全について



概-6図 府内の森林（山林）について、特に重要と考える役割（複数回答）

